学校番号	１００７

令和３年度　芸術科

教科	芸術	科目	工芸Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	工芸Ⅲ						
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

科学・技術の発展する現代社会における工芸の意義・役割を考えましょう。先人の残した技術や知恵の蓄積をどのようにして自分の中に取り入れるのか。美意識や技を高め、磨き、深めるのが重要になってきます。それこそが工芸の原点です。自分の手によって作り出すことを基本に学習します。美術館、博物館、ギャラリー等へ足を運び、実際の作品に出会う機会を作ることで、自己のテーマを発見し制作につなげます。
高校展など展覧会への出品を目標にした制作を通じて、より完成度の高い制作を目指しましょう。

2　学習の到達目標

・主題の把握からデザインに至るまでの段階を学び、材料となる素材、技法、構造及び手順を理解し、自らのアイデアを形にしていく造形能力を高める。
・創造活動を通して、表現と鑑賞の能力を一層高めると共に物づくりについての理解を含め、美術文化を尊重する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:工芸への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	工芸を愛好し、美術文化に関心をもち、個性豊かに意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて工芸のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに発想し創造的に表現を工夫する。	個性豊かに創造的な表現をするために材料、用具、手順などを考えて制作する技能を身に付けている。	心豊かな生き方にかかわる工芸の働きや美術文化などを理解し、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
第1ターム	陶芸照明、花器（選択）	オリエンテーション 課題「陶芸照明、花器（選択）」 デザイン 成形 器面調整 加飾 指導 練習 成形 着色 施釉 焼成（窯づめ体験）	○	○	○	○	a: 身近な生活や自己の思い、用途と美しさを考えて照明、花器を制作することに関心を持ち、主体的に発想して作品の構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。 b:対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、構成などを工夫している。 c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容
第2ターム	卒業制作	卒業制作（自由制作） 計画 材料の吟味 材料調達 試作 ・卒業制作 （制作開始）	○	○	○	○	a: 工芸の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 b:感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている。	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容

第3ターム・第4ターム	卒業制作	・卒業制作 鑑賞	○	○	○	○	a:生活や社会を心豊かにする工芸の働きやデザインの目的や条件、機能や用途などを考えて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力

c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。